

高知大学 病院ニュース

〔編集〕
 高知大学病院ニュース
 編集委員会
 委員長 佐野 栄紀
 〔発行人〕
 高知大学医学部附属病院
 病院長 杉浦 哲朗

患者さんからの「ご意見」と 平成24年度接遇マナー向上のための目標

病院機能改善ひまわりプロジェクト

病院機能改善ひまわりプロジェクトは、病院機能改善委員会を毎週月曜日に開催し、患者さんや職員からのご意見やご提案を基に検討・改善に取り組んでいます。委員会のメンバーは病院長・副病院長・医師・コメディカル・事務職員など33名です。また、毎月1回病院内環境改善の為の巡回を行い病院内の美化にも努めています。

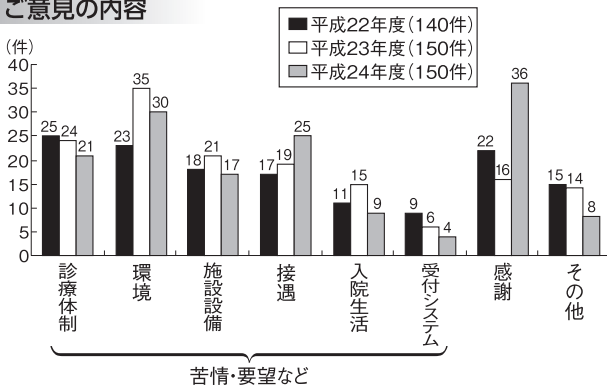
下記のご意見箱集計結果は、平成22年度から24年度の4月から9月の期間を比較したものです。苦情・要望などの内容は、環境に関すること・診療体制に関すること・接遇に関することなどがありましたが、感謝の言葉も多く寄せられています。

苦情・要望などの中には、接遇に関するものが多く見られ、その内容は**笑顔がない・きつい表情・無表情等対応の時の表情**に関することや、**不親切・相手を見ない・横柄な態度・仕事上の私語等**があります。

また、患者さんが立っている横で職員が椅子に座っている、横一列で歩いて通行の邪魔になっているなど、**直接患者さんに対応してなくても患者さんは職員を厳しく評価**しています。

病院機能改善委員会では、平成20年度から目標を定めて接遇マナー向上に取り組んできました。これまでは委員の方々から目標を募集していましたが、本年度は全職員の皆様から募集した結果、以下のとおり決まりました。今後も接遇マナー向上のためご協力をお願いします。

ご意見の内容



「安心は あなたの笑顔と その一言」



ご意見・ご提案は

himawari@kochi-u.ac.jp

まで

受賞報告



外科学講座外科1所属

竹崎 由佳さん Young Investigation Award (YIA) を受賞

外科学講座外科1所属の竹崎由佳さん(総合人間自然科学研究科医科学専攻修士課程1年)がInternational Symposium on Pancreas Cancer 2012 in Kyoto で Young Investigation Award (YIA) を受賞しました。

受賞した発表 “Nafamostat mesilate, an inhibitor of nuclear factor-kappa B, limits oncogenic properties of pancreas carcinoma cells.”では、ヒト培養膵臓癌細胞株では転写因子であるNF-κBが活性化され、NF-κBの活性化が癌細胞の増殖及び生死の決定において重要な役割を果たす事が報告されています。今回、竹崎さんはプロテアーゼ阻害剤によるNF-κBの抑制が癌細胞に高い細胞死感受性を与えることを明らかにしました。

研修医紹介



青山 直樹 あおやま なおき *Aoyama*

高知県出身で高校卒業後は岡山県の川崎医科大学に在籍しており、両親・病院見学時の先生方の勧めもあり、地元である高知県で医師としての生活をスタートしたいと考え高知大学で研修することを決めました。外部の大学出身という事で最初は期待よりも不安の方が大きかったのですが、同期や指導医・病棟看護師の皆さんに支えられながら研修生活を送っています。高知県は現在高齢化が進んでおり、地域医療の必要性がますます注目されると考えています。そんな時に必要とされるのは、専門の知識に加え全般的な知識を併せ持った医師が必要だと考えています。私はそういった医師になれるようこれからも努力していきたいと思っています。先生方、今後ともご指導の程、よろしくお願ひ致します。



團 隼兵 だん じゅんべい *Dan*

名字が非常に珍しいらしく、自己紹介すると次はよく出身地を聞かれます。出身は九州の佐賀県です。大学は高知大学出身なので、高知県生活も7年目に入りました。大学時代はサッカー部に所属していましたが体力は普通です。

早いもので研修医として働き始めて8ヶ月が過ぎようとしています。2ヶ月毎に研修科が変わり、慣れてきた頃にはまた次の科というめまぐるしい環境において無事に研修生活を送れているのも、熱心に指導してくださる各診療科の先生方、明るく接して下さる看護師の皆さん、何でも相談出来る同期のおかげだと思います。まだまだ勉強不足で周りに迷惑をかけてばかりですが、一生懸命頑張ろうと思いますのでよろしくお願ひします。



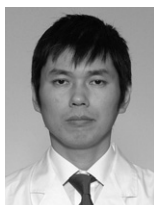
歯科研修医
笹 光治郎 ささ こうじろう *Sasa*

出身は徳島県です。大学は福岡歯科大学で、部活はソフトボール部でした。高知という大自然に囲まれた場所に惚れ込み、ここ高知大学での研修を選ばせていただきました。趣味は映画観賞です。仕事が終われば、映画を観ながらお酒を楽しんでいます。将来の夢は、口腔外科医として様々な疾患と向き合い、患者さんに満足していただける治療を行うことです。まだまだ人間として、口腔外科医として未熟ですが、今後ともご指導の程よろしくお願ひいたします。



古島 知樹 ふるしま ともし *Furushima*

海のない長野県から太平洋にあこがれ高知大学医学部に入学し慣れ親しんだ高知で、今年度から医師としてのスタートを切りました。学生の時はフットサルをしていまして、今でも時々休日に大会に参加して汗を流していますが、フットサル同様に医療においても個人の技術とチームワークが大事だと感じています。2年間の初期研修を通して医師としての幅広い知識・技術を身につけるとともに、病院スタッフとのスムーズな連携の仕方を学びたいと思っております。研修期間もすでに8ヶ月が過ぎ、各診療科、各部署の皆様にも助けられながら日々研修しています。徐々に病院に慣れてきてはいますが、まだまだ分からない事も多く、引き続き温かいご指導、ご鞭撻をいただけたらと思います。よろしくお願ひいたします。



高橋 政雄 たかはし まさお *Takahashi*

高知大学医学部出身、部活は弓道部です。趣味は読書と映画鑑賞です。パソコンもほんの少しだけ趣味です。医学部に入る前は、東京の某光学機器メーカーでシステムエンジニアをやっていました。しかし、それももう昔の話です。今は何とか研修医となり内科系の各科で日々勉強させていただいています。今後いろいろな科で研修させていただき、出来るだけ多くの症例を経験し、医師として必要な知識と技術を身につけていきたいと考えています。実は今、自分が将来どんな医師になりたいのか、まだ分からずにいます。良い医師にはなりたいのですが、それ以上の将来像が描けず迷っています。40歳を不惑といいますが、そろそろ迷わず生きたいものと反省の毎日です。迷いを忘れるくらいに日々の研修に熱心に打ち込めたらと思います。今後ともご指導の程、よろしくお願ひ致します。



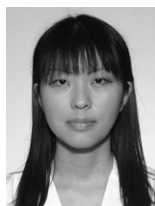
帆足 裕 ほあし ゆう *Hoashi*

名字が珍しく、よく出身地はどこですかと聞かれますが、高知出身で高知大学を卒業し今までずっと高知で過ごしてきました。中学、高校とずっと野球をしていましたが、大学ではラグビー部、ダンス部、軽音部に所属しておりました。

この半年間、内科を中心に研修をさせていただいて、長かったような、それでいてあっという間の非常に充実した日々を過ごしました。

将来は脳神経外科に進みたいと思っておりますが、どの科で研修させていただいても新しいことがいっぱい、日々いろいろな先生方の指導のもと、勉強させていただいております。いろいろな面でまだまだ若輩者ではございますが、体育会系の部活で鍛えた体力と根性には自信がありますのでこれからも御指導のほどよろしくお願ひします。

着任の 挨拶



松澤 智佳 まつざわ ともか

Matsuzawa

高知大学出身で、今年で高知に住んで7年目になります。本当は東京生まれ東京育ちのほぼ江戸っ子ですが、「東京出身には見えないネ」とよく言われます。性格はぱっと見A型、でも実はB型でわりと大胆、本人は焦っていても、周りからはのんびりして見えるようです。大学時代は弓道部で、狙った的にはあまり当たらないけれど、みんなで飲み会をしたりドライブをしたりと楽しい6年間を過ごし、高知のことが大好きになってしまいました。4月から研修が始まり、毎日のように右往左往ドタバタしていますが、みなさんに温かく助けていただいて、なんとかここまでやっています。いつも本当にありがとうございます。日々悩んだり、壁にあたったりしていますが、笑顔を忘れずに一日一日成長していきたいです。これからもご迷惑をおかけすることが多々あると思いますが、ご指導よろしくお願い致します。



森木 俊宏 もりき としひろ

Moriki

高知県出身で高知大学の卒業です。大学6年間は野球部に所属し練習への出席率は高く、というか常にグラウンドにいました。

大学病院での研修を通じて、患者さんやその御家族、さらには病院スタッフからも信頼される医師になりたいと思っております。社会人1年目で分からないことばかりですが、一人前の医師になれるよう務めてまいりますので、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。

歯科研修医

山本 眞代 やまもと まよ

Yamamoto



出身大学は大阪歯科大学で、今年の春に地元である高知県に帰ってきました。大学では硬式野球部のマネージャーをしていました。趣味は映画観賞で休日は必ず映画を観ています。

将来は、確かな診断ができる、患者さんのことを第一に考えられるような歯科医師になりたいと考えています。そのためにも、研修期間を無駄にすることなくしっかりと学んでいきたいと思っております。今後ともご指導の程、よろしくお願い致します。



吉田 真夏 よしだ まなつ

Yoshida

出身地は東京ですが出身大学は高知大学です。大学6年間は野球部に所属し毎日汗を流しておりました。高知生活は7年目となりましたが、社会人として医師としての第一歩をこの高知でスタートできたことをとても嬉しく思っております。

研修医として働き出してから約半年が経ち、少しずつですが仕事にも慣れ、充実した日々を送っております。現在は内科を中心に研修させていただいておりますが、日々指導医の皆様方、コメディカルの皆様方に熱くご指導を頂いております。また、同期にも恵まれて、お互いに助け合い、刺激しあいながら共に成長しています。高知の医療に貢献できるような医者になれるよう、これからも日々努力を重ねていきますので、今後ともご指導ご鞭撻の程、よろしくお願い致します。



総務企画課長
都築 泰仁

平成24年11月1日付けで、医事課長から総務企画課長に異動になりました。病院収入の確保、厚生労働省等の共同指導への対応等、医事課の課題は山積ですが、後任の方に託すのみです。総務企画課は、病院を含む医学部全体の意思決定に関与する機会が多く、また、外部との交渉窓口としての役割もあり、前職同様に重要な業務だと改めて感じています。今後も微力ながら、与えられた職責を精一杯果たしたいと思いますので、ご指導の程、お願いいたします。



医事課長
山田 正三

平成24年11月1日付けで医事課長に着任いたしました。

昭和54年4月に高知医科大学へ採用され、高知大学との統合後も含め、会計系、施設系の業務に主に携わってきましたが、医事系業務も少なからず経験しております。これらの経験を生かしつつ、大学医学部附属病院としての地域医療機関との連携や質の高い患者サービスの提供、更に、病院再開発を見据えた病院の機能改善等々に微力ながら尽力したいと考えておりますので、ご指導、ご協力をどうぞよろしくお願い致します。

職場紹介 リハビリテーション部

リハビリテーション部では何らかの病気や怪我のため早期からリハビリテーションを必要とする患者さんに対して、医師の指示のもと、全身状態の変化に注意しながら機能回復リハビリテーションを施行しています。スタッフは、医師4名(うち兼任2名)、看護師1名、理学療法士9名、作業療法士6名、言語聴覚士5名、事務職員1名であり、多職種によるチームアプローチの実践とともに、高度先進医療にも対応した大学病院ならではのリハビリテーションを展開しています。

●設備・施設● リハビリテーション部には評価・治療全般に使用される運動療法室・作業療法室・言語聴覚室、循環器疾患に対応できる心疾患リハビリテーションルーム、その他にも水治療室、日常生活動作へ直接的にアプローチできる和室・調理台等も設置しています。高度先進医療を実践すべく、動作筋電図や歩行解析装置などの評価・運動機器も充実しています。また、遠隔地にいる患者さんの診療を通信ネットワークによって行う『遠隔診療』実現のためのシステム作りも進めています。

●外来診察● 初診は月曜日・火曜日・木曜日に、再診は水曜日・金曜日にリハビリ専門医が診察を行っています。年々各診療科からの依頼件数が増加しており(平成21年度983名、平成22年度1,094名、平成23年度1,105名)、ご協力に感謝申し上げますとともに、ご期待に応えられるようさらに努力していく所存です。

●理学療法部門● 理学療法部門では、整形外科疾患、神経・筋疾患、中枢神経疾患、循環器疾患、呼吸器疾患、代謝疾患、小児疾患等を対象に、ベッド上での廃用症候群の予防から、ベッドから起きて患者さん自身で移動できるようになるまで、それぞれの段階に応じた基本動作の獲得を目標に運動療法や物理療法を実践しています。

また、当部所属の理学療法士は、専門理学療法士3名(基礎理学療法2名、神経系理学療法1名)、呼吸療法認定士4名、心臓リハビリテーション指導士1名、糖尿病療養指導士1名等、各学会認定資格取得者も多く、その専門性を日々の臨床に活かしてアプローチしています。

●作業療法部門● 作業療法部門では、身体または精神に障害がある方、またそれが予測される方に対し、その主体的な生活の獲得を図

るため、諸機能の回復、維持および開発を促す作業活動を用いて、治療、指導および援助を行なっています。当院の作業療法は、身体障害部門と精神障害部門に分かれて行なっています。

身体障害部門では、5名の作業療法士で主に脳血管疾患、運動器疾患、がん疾患などの患者さんに対して機能回復訓練や実際の動作指導、自助具の提供などを行ない、日常生活動作の改善を目的にアプローチしています。

精神障害部門では、今年の7月から専従の作業療法士1名が配属となり、精神疾患患者さん(認知症を含む)に対して、今までの生き方や特徴、その人らしさを尊重し日常生活に必要な能力や生活リズムの獲得を目的にアプローチしています。

●言語聴覚部門● 言語聴覚部門は、乳幼児から高齢者までの高次脳機能障害、構音障害、音声障害、言語発達遅滞、聴覚障害、嚥下障害など、幅広い分野に対応して専門的サービスを提供し、自分らしい生活を構築できるよう支援しています。

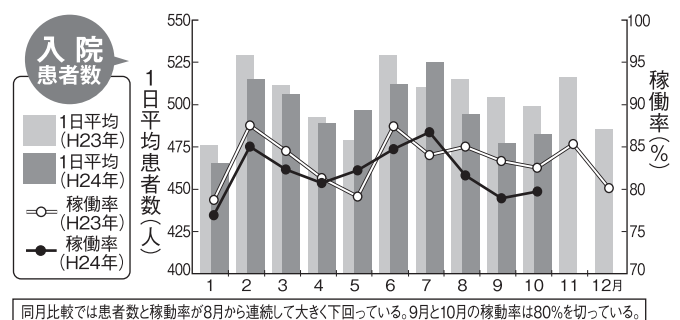
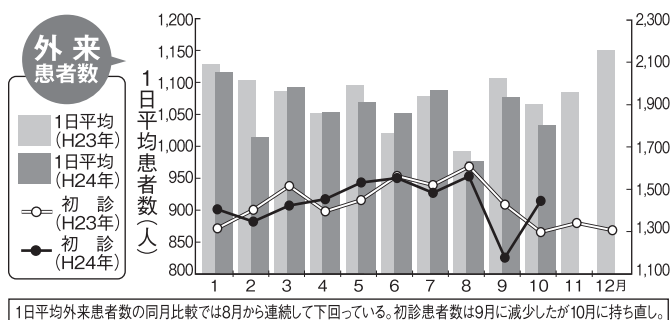
特に、脳神経外科での覚醒下手術時に参加し、術中における言語野の同定に協力しています。また、耳鼻咽喉科外来での各検査やリハビリテーションなども積極的に行っています。



リハビリテーション部の皆さん(中央:谷部長)

リハビリテーション部はこれからも幅広い疾患や分野に対応していくために研鑽を重ねていきます。今後も積極的に他部署とチームアプローチを実践していきたいと考えていますので、よろしくお願いたします。

診療状況



編集後記

先月の病院ニュースの中で某経済誌に載った『頼れる病院ランキング』の特集記事が紹介されていた。最近になってその第2弾ともいべき『頼れる病院、消える病院ランキング』特集号が同じ出版社から発売された。病院関係者にとっては大いに気になるタイトルだ。前回特集号の売れ行きが好調だったので、二匹目のドジョウを狙ったものと思いつつ、つつい手が出て買ってしまった。

今回、高知大学病院は、国立大学附属病院部門で前回と同じベスト8の地位をキープ。さらに高知県内では高知医療センター、近森病院を押さえて、信頼度第1位に輝いた。これはひとえに経営陣の優れた経営手腕と病院ス

タッフの日々努力の賜物...といきたいところだが、そうも簡単ではないように思える。というのも、今回の高知大学病院の信頼度評価は百点満点中93点。ちなみに全国国立大学病院の平均は90.4点。ほぼ86~96点の狭い範囲に、実に41もの国立大学附属病院が僅差でひしめきあっている計算だ。現状に満足して安閑としていると、それこそ番外に転落しかねない。

「勝って兜の緒を締めよ!」の上は「再開発」などという言葉に躍らされることなく(都市「再開発」と聞くと、どうしても古い建物を全て取り壊して、近代高層ビル群に様相を一変させることをイメージしてしまう...)、高知医大黎明期から先達が築き上げた功績をしっかり継承し、さらに進化、発展させる心意気がほしい気がする。

(文責:岸 茂)